

# 重点支援区域（南空知圏域）の取組状況

- 南空知圏域では、公立・公的医療機関で施設の老朽化等が進み、建替えに向けた検討が進められている状況にあり、地域の議論を促進する必要があったことから、令和2年2月10日開催の調整会議において道から「論点提起」。
- 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院を対象病院として、国に「重点支援区域」の申請をすることを調整会議で合意。（R2.8.25\_\_重点支援区域に選定）
- 令和3年7月 両病院の統合に係る基本合意を締結
- 令和4年4月 新病院の建設地を北海道中央労災病院敷地とすることを表明
- 令和4年10月 新病院建設基本計画策定（令和10年春開院を目指す）



岩見沢市立総合病院

一般病床 365床  
・急性期 365床  
（精神115床 感染症4床）

（地域センター病院  
救急告示病院  
災害拠点病院  
周産期母子医療センター）

急性期機能の  
維持・強化に  
向けた再編統合



(独)労働者健康安全機構  
北海道中央労災病院

一般病床 199床  
・急性期 164床  
・回復期 35床

（地域がん診療病院  
救急告示病院）

## 道からの論点提起

- 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院では、人口減少下における急性期機能の維持・強化を図るため、機能集約化など再編統合に向けた議論を進めていただきたい。
- その他の病院では、岩見沢市内の議論の状況も踏まえながら、各病院においてどのような機能・規模が必要か、検討を進めていただきたい。

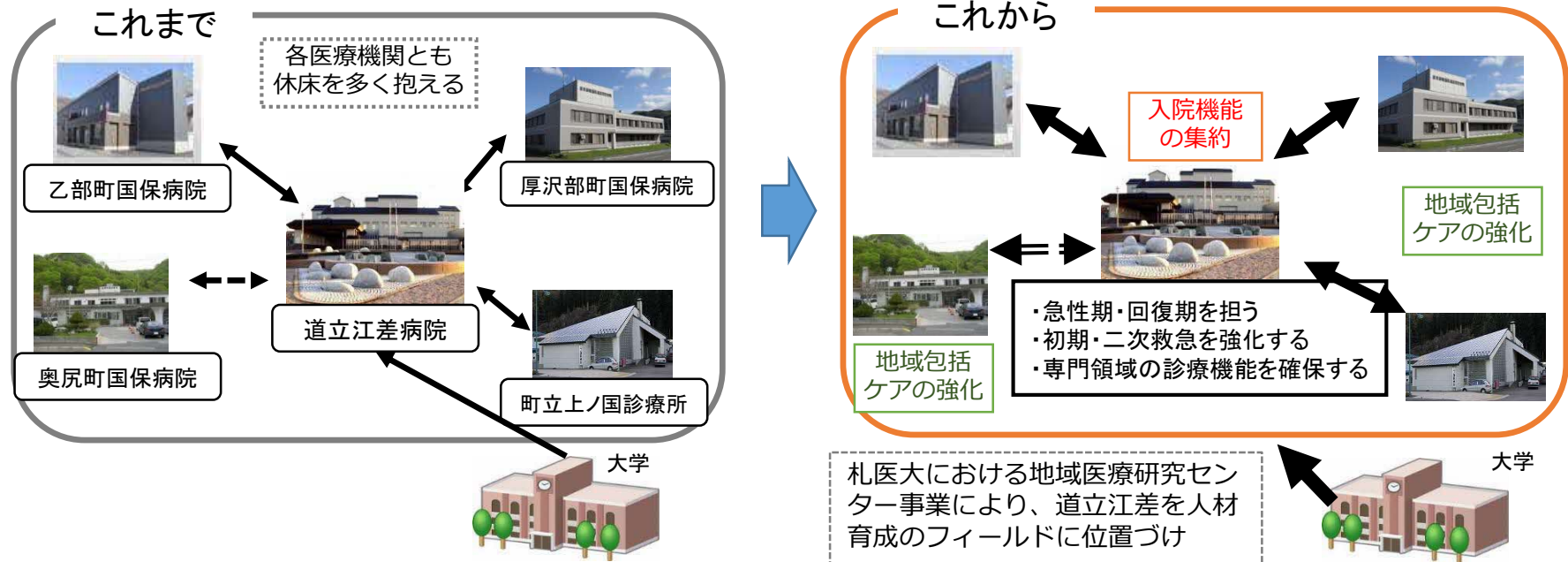
## 主な公立・公的病院の築年数

- ・岩見沢市立総合病院（築38年）
- ・北海道中央労災病院（築67年）
- ・市立美唄病院（築56年）
- ・市立三笠総合病院（築58年）
- ・栗山赤十字病院（築43年）
- ・北海道せき損センター（築67年）

(R4年度時点)

# 重点支援区域（南檜山圏域）の取組状況

問題意識：「今ここで、関係者が力を合わせ、将来を見据えた医療提供体制を作り上げていかなければ、人口減少が急速に進む南檜山の医療は守れない」



- 「南檜山の患者は、できるだけ南檜山で診る」ことを指向し、圏域全体で目指すべき医療の方向性を示す、『南檜山圏域の医療を確保するための行動方針』を策定。

ポイント

- ・ 入院機能をできるだけ江差病院に集約する。
- ・ 各町立医療機関は、地域包括ケアの拠点としての機能を担う。

- 行動方針に基づく取組を関係者が一体となって進めるため、「地域医療連携推進法人」の設立を進め、令和2年9月1日に設立。
- 国の「重点支援区域」への申請について、地域医療構想調整会議で合意。（R2.8.25\_重点支援区域に選定）
- データ分析などの国の技術的支援を受けつつ、圏域内での連携について検討を進めている。

# 「上川北部圏域」の取組状況

- 令和2年3月16日 名寄市病院事業と士別市病院事業が「地域医療連携推進法人」を設立する旨を公表し、令和2年9月1日に設立。
- 名寄市立総合病院に急性期医療を集約し、士別市立病院は主に回復期・慢性期の患者を担う機能分担により、効率的な医療提供体制を目指す。
- 名寄市立総合病院においては、令和5年5月に手術室の増改修事業に着手。



名寄市立総合病院

一般病床 300床  
・高度・急性期 252床  
・回復期 40床（地域包括ケア）  
・休床 8床  
（精神55床 感染症4床）

（ 地方・地域センター病院  
救命救急センター  
災害拠点病院  
周産期母子医療センター ）

2病院による  
意見交換を  
重ねる

地域医療連  
携推進法人  
を設立する  
旨表明



士別市立病院

一般病床 148床  
・急性期 60床  
・慢性期 88床  
（うち地域包括ケア病床27床）

（ 救急告示病院  
在宅療養支援病院 ）

## 地域医療連携推進法人の概要

- 名称 : 地域医療連携推進法人「上川北部医療連携推進機構」
- 参加団体 : 名寄市（名寄市立総合病院）、士別市（士別市立病院） ※今後拡大を検討
- 区域 : 上川北部圏域 ※今後拡大を検討
- 具体的な取組 : ①診療機能等の集約化・分担・強化、病床規模の適正化  
②医療機器の共同利用  
③医薬材料・薬品等の共同交渉・共同購入  
④委託業務共同交渉  
(推進方針) ⑤連携業務の効率化（電子カルテ、その他システム等の将来的な連動）  
⑥医療介護従事者の派遣体制の整備、人材育成、人事交流  
⑦入院患者の在宅療養生活への円滑な移行の推進、病院間の連携強化  
⑧働き方改革への対応